

東北森林管理局

指導普及課だより

第 60 号

発行日 平成22年11月26日

郵便番号 010-8550

電話番号 050-3160-6456

住 所 秋田市中通5丁目9-16

森林技術部門と森林ふれあい部門で受賞

## 平成22年度 国有林野事業業務研究発表会

11月17日（水）に農林水産省において、平成22年度国有林野事業業務研究発表会が開催され「森林技術部門」に11課題、「森林ふれあい部門」と「国民の森林部門」に各7課題の計25課題の発表が行われました。

東北局からは「森林技術部門」に2課題、「森林ふれあい部門」と「国民の森林部門」に各1課題の計4課題の発表を行い、「森林技術部門」で企画調整室の後藤敏さん、計画課の劔持直樹さんの



発表する佐藤さん

の発表した「新たなGPS機器を活用した森林管理の効率化に向けた検討について」が日本森林技術協会理事長賞を、「森林ふれあい部門」で岩手北部署の佐藤次郎さんの発表した「国有林って何ですか？に答える森林環境教育実施への一考察」が日本林政ジャーナリストの会会長賞を受賞しました。受賞された皆さんおめでとうございます。

また、惜しくも賞を逃したものの当指導普及課の有馬俊英さんが発表した「林地残材を活用した農畜産業への貢献」は、「林業と農業を連携させた施業に着目するなど今の時代には非常に大切なことであり、今後の取り組みに期待したい」と審査員から激励のコメントを頂きましたし、「スギ人工林の高齢級複層林への誘導」を発表した森林技術センターの田畑良輝さん、木村正彦さんからは、「他の発表は刺激になった。常に問題意識をもって業務にあたりたい。」との感想があり、今後の取り組みへの決意を新たにしていました。



発表する後藤さん



↑「森林ふれあい部門」で賞を受ける佐藤さん



「森林技術部門」で賞を受ける後藤さんと劔持さん

## 仁別森林博物館より

# その1 来館者10,000人突破

10月9日(土)、仁別森林博物館の来館者数が、平成20年5月のリニューアルオープンから数えて10,000人を突破しました。記念すべき10,000人目の来場者となったのは、親子で来館された秋田市内の小学校一年生亀谷宗史(そうし)君です。式典で記念品を受け取り、案内人会等の皆さんと一緒に記念撮影をした宗史君は、思いがけない出来事に喜んでいました。



宗史君と一緒に記念撮影

# その2 三者協定による清掃活動



10月9日(土)には、アサヒビール株式会社秋田支社、仁別森林博物館ボランティア案内人会及び当局による仁別自然休養林でのボランティア活動を行いました。この活動は、平成20年8月に締結した三者協定に基づいて、年2回春と秋に行っているものです。

当日は、あいにくの小雨模様の中、アサヒビール秋田支社の社員、案内人会の会員、局職員ら25名が二組に分かれ、太平山登山道のゴミ拾いと登山道入り口付近の草の刈り払いなど清掃活動を行いました。昼食後は、来年度の仁別森林博物館周辺の樹木園の充実を図る活動準備として、クヌギの苗づくりを行いました。この活動は、平成24年度まで計画されており、今後とも仁別自然休養林の森林保全活動を盛り上げていくことを確認し解散しました。

## 岩手北部森林管理署

# 森林環境教育リーダー養成研修の開催

9月28日～30日までの3日間、岩手北部森林管理署主催により、昨年度森林・林業体験交流促進事業で整備した岩手県葛巻町にて、リーダー養成研修が開催されました。岩手北部署職員をはじめ岩手県内の署等職員、協賛である葛巻町、葛巻町森林組合、森と風の学校の職員ら約20名が参加し、指導普及課からも2名が参加しました。



森の野点の様子



### 3日目プログラム実践の様子

また、最終日の研修のとりまとめでは、受講者がグループに分かれてプログラムを考案し実施しました。参加者が自ら企画し発表するなど、実践的な内容が多く、大変有意義な研修でした。今後、受講者の森林環境教育リーダーとしての活躍が期待されます。

## フォレスター連絡会議開催

# 秋田・山形両県と取り組みや課題について交流

### 山形県フォレスター連絡会議 ～ 国有林におけるナラ枯れ被害区域を視察 ～

1月11日～12日、山形森林管理署会議室において山形県フォレスター連絡会議を開催しました。

1日目の会議には、山形県森林研究研修センターから2名、東北森林管理局から3名、山形森林管理署から2名が出席し、局と県の双方から森林・林業の普及活動の取



天然記念物「ワラロのコナラ」

組み状況等を報告、意見交換では「児童・生徒を対象とした森林教室や研修等で県と国と一緒にできるものはないか」との意見があり、できるものから共同開催を模

索することとしました。また、森林・林業再生プランにおける「日本型フォレスター制度について」情報交換等がありました。

2日目の国有林内列状間伐地現地研修では、民有林における列状間伐推進に向けて意見交換を行い、ナラ枯れ被害区域では、天然記念物「ワラロのコナラ」の保存をはじめ、被害の防除対策についても引き続き連携することを確認しました。

最後に、今後お互い情報交換を行うこととして会議を終了しました。



挨拶する高橋指導普及課長

### 秋田県フォレスター連絡会議 ～ 列状伐採試験地等を見学 ～

1月17日に秋田市の秋田県森林学習交流館「プラザクリプトン」において秋田県フォレスター連絡会議を開催しました。

当日は、秋田県森林整備課から3名、東北森林管理局から5名が出席しました。双方から森林・林業の普及活動の取り組み状況の報告等を行い、森林・林業再生プランにおける「日本型フォレスター制度について」情報交換がありました。

午後からの現地研修では、針広混交林へ誘導するため、列幅20mの伐採を実施した試験地と高性能林業機械による路網作設オペレーター初級研修実施地を視察、ここでも活発な意見交換がなされました。

今後ともお互い情報交換を行うことを確認して会議を終了しました。



列状伐採試験地の見学

# 森林ふれあい推進事業（緑の山歩塾）後半を終えて

## 第3回 「獅子ヶ鼻湿原散策と国有林見学」

9月3日（金）早秋の獅子ヶ鼻湿原散策を行いました。当日は、前夜からの雨の中22名が参加。中島台レクリエーションの森駐車場で開会式を行った後、出発する頃には雨も上がり、時折薄陽が射すなど気持ちの良い散策となりました。初めに、世界的にも希少なコケである「ヒラウロコゴケ」等貴重なコケ類が生育する淵に到着。それらが球状に発達したものが「鳥海マリモ」と呼ばれています。次にブナが特異な形をしている「奇形ブナ」の群落に進み、

「森の巨人百選」にも選ばれている日本一太い奇形ブナ「あがりこ大王」の前で記念写真を撮り、中島台を後に次の目的地である海岸林の治山事業を行っている国有林に向かいました。ここでは、松くい虫等により被害を受けた海岸林の復旧対策として由利森林管理署が取り組んでいる、抵抗性クロマツの植栽等さまざまな取り組みを見学、参加者からはこの様な事業地を見学でき大変良かったなどの声が聞かれました。



「あがりこ大王」の前で記念写真



「安の滝」を背に記念写真

## 第4回 「紅葉の安の滝」

10月16日（土）今年度最後の緑の山歩塾「紅葉の安の滝」を行いました。

当日は32名が参加、途中「安の滝」の名前の由来や日本の滝百選第2位に選ばれていること、また、紅葉のメカニズム等を説明しました。（参加者の中には、「安の滝に何回か行ったことがあるが、名前の由来までは知らなかった」など和気あいあいとスタート。）今年の紅葉は期待したほど色づいていませんでしたが、「安の滝」を前に多くの参加者から「すごい迫力」と歓声が上がり、イベントを企画する側としては嬉しい限りでした。帰りは、上小阿仁村の上大内沢自然観察教育林にある「コブ杉」を見学し、有意義な一日を過ごしました。

来年度も、参加者の皆様が喜んで頂けるよう工夫を凝らし、国有林野をもっとPRしていきたいと思えます。

### ～ 編集後記 ～

企画係臨時職員の佐々木里枝さんが退職、後任に齊藤紘子さんが新たに加わりました。皆様どうぞ宜しくお願いします。

指導普及課は、緑の普及はもちろんのこと技術開発をはじめ自然再生や緑の回廊・保護林全般等々多岐に渡り事業を行っています。これからも気持ちを新たに課員一同一丸となって邁進あるのみ。

来年は「国際森林年」です。（K）



2011・国際森林年